

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300072		
法人名	有限会社アダモ		
事業所名	グループホーム風		
所在地	静岡県富士市神戸738-6		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosvCd=2292300072-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた環境の中で、安心した老後生活が送れるよう支援させていただき、コミュニケーションの原点である「相互信頼」「相互尊敬」の関係が築けるよう最大限に努力をいたします。同時にご利用者及びご家族の「今」をできるだけ快適に、そして生き生きとしたものにしていただけるよう支援いたします。遠方の家族、お勤めの家族負担をなるべく減らすため、病院受診等は出来る限り施設側にて対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

使用していない和室が3部屋もあり、またクローゼットが予め備わる居室には更にテーブルセット等が持ち込めるゆったりとしたスペースです。来客用の和室は積もる話の場として面会で提供し、平均介護度3.44でも日中に離床できていて、褥瘡ありません。このようなCS意識の高さとともにESにも力を注ぎ、「有給をとりやすくしたいね」という発想から、「長期休暇取得」が当たり前となっています。代表者が通院介助などをフォローすることもあり、また管理者がフリー勤で常勤換算8.5という高配置で、車いす利用が増えても今3月のイチゴ狩企画もスムーズに実現の運びとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「相互尊敬・相互信頼」をモットーに利用者、その家族、職員、事業所がお互いに尊敬し信頼できる関係作りに力を入れております。	『相互尊敬・相互信頼』の理念は、年1回の人事考課の際に「できていますか？」と口頭確認しています。利用者との関わりについては実現できているものの、職員間では課題が残るとして是正策を検討中です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会役員の業務に従事し、地域の行事・活動に出来る限り参加できるよう取り組んでいます。	代表者が神戸地区生涯学習推進会の文化教養部員を引き受け、文化祭や体育祭の時期になれば休日返上で貢献を続けています。地域の落語寄席などの行事には利用者も顔を出しています。	認知症サポーター養成講座の講師が事業所内に増える等、地域交流に弾みがつくツールがあると、なおよいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等を住民向けに開催したいと考えているが現状では十分な活動は出来ていない。法人での相談窓口は設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員の方に出席をお願いし意見交換を行っている。最近では小学校のPTA会長にも参加していただいている。	町内会長や民生委員だけでなく、市議員だった人やPTA会長といった地域をよく知るメンバーを揃え、隔月開催できています。特に民生委員には地域の福祉に係る情報を提供くださり、助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難ケース対応、その他不明な点については都度担当窓口へと問合せを入れ確認をするようにしている。	運営推進会議には、平日の夜間開催にも関わらず、市役所並びに地域包括支援センター職員も出席くださっています。事業所も富士市が推奨する『ふじサンサン体操』や研修会に積極的に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回開催するケア会議において現在のサービス状況の確認をし提供しているケアの確認をしている。	本年の法改正に伴い、身体拘束適正化における指針を作成し、『身体的拘束・高齢者虐待防止委員会』を設置しています。会議もすでに3回を終え、残り1回は3月に実施の予定で、現状課題となるような事例はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の掛け方にも気を配り、改善が必要な場合には都度注意をしている。入浴時には全身のチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対しては十分に学習時間を提供出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面及び口頭にて都度確認をとり、必要時には署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度家族が来所されるため、その際に現状報告及び意見聞き都度対応している。	意見箱には一度も入ったことなかったため、近年取り外してはいますが、面会では必ず様子を伝えるとともに、毎月一筆箋と写真を請求書に同封しています。またBBQなどの行事にも誘い、同席くださる家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議参加者にそれぞれ発言できる場を設け、必要時にはその意見をもとに改善を図っている。	職員会議とケア会議が毎月慣行され、情報共有を確かなものとしています。「年末年始は出てね」との前提で、『長期の休暇取得』が当たり前となっていますが、こちらも職員意見で実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与での個別評価、有給を使用した年に1度の長期休暇、社外・社内研修参加による資格取得・技術向上に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(出前講座)の開催や社外研修(実践者研修等)の参加機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分には出来ていないが、年に1回は同業者と合同研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護保険制度の説明から始まり、事業所がどういったサービスを提供するかを専門用語を使わずに分かりやすく説明をする。本人及び家族に対して個々に希望を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談が受けれる関係づくりに努め、不安な部分があるべく解消されるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先事項を決めその人らしく生きることのできるよう相談にのっている。ニーズが合わない場合には他事業所から情報収集もやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ捨て、掃除、洗濯、食器拭き等をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事への参加をお願いし、本人と関わる機会を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会及び外出支援を行っている。 墓参り、自宅への一時帰宅など。	長い人は10年余、大半が3年以上となり第二の我が家とする人も増えて、此処が馴染みの場へと変容しています。穏やかな空気が流れ、「おじいさん、おじいさん」と仲間の世話をかいいがいく焼く姿もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を一緒に行い、ホールで過ごす時間を多く設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されるケースは稀だが、年に1度は連絡をとり状況の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度意思確認が可能な方には声を掛け現状について確認をしている。	代表者が通院介助などをフォローすることもあり、常勤換算8.5という高配置によって、利用者と職員がマンツーマン状態となる手厚い介護が叶っていて、関わりが密な様子が利用者の言動からも覗えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生いたちを考慮したうえで安心した生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態観察をおこない記録に残している。生活の日課については状態を見ながら必要があれば見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の誰もがプラン等の書類に目が通せるようにしてあり必要な支援があれば現場スタッフの意見を吸い上げ修正をしている。	ケア会議においてモニタリング内容を十分確認して、現場の声を介護計画書に反映させています。介護保険に係る知識の差はあるものの、現場の視点にブレはなく、職員意見による介護計画書と成っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末を使用し、情報の共有を図っている。その他重要事項については別冊ノートにて申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きつけの美容院、墓参り、同一法人の運営するデイサービスへ外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公園での運動、まちづくりセンター内の図書コーナーの活用等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時対応し情報共有している。医師と家族の面談機会を設け、家族の希望を踏まえた医療対応に心がけている。	他科受診は全て事業所で通院介助をおこなっています。内科は協力医の往診(時間外扱い)が月1回あり、重度化した利用者2名は在宅専門医(24時間対応)に担当医を切り替え、月2回の診療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し相談援助業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も常時状況確認のため通院し、今後の支援内容を病院関係者と検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	都度看取り対応について確認をし、施設での対応及び医療面の支援体制を説明している。実施時には看取り介護計画書を作成し説明、同意を得ている。	契約時には家族と看取りについて合意しており、職員は外部研修にも参加しています。現在看取りに入る段階を迎えた利用者が2名おり、またその内1名は最期についての宣言を自筆でしたためたものが筆筒の中からできて、感慨深いものがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、連絡体制及びAED等の初期対応訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練。 現時点でBCPは未策定。	年2回の法定訓練には業者にも立ち会ってもらい、地域の消防団にも事業所の紹介とともに、気にかけてもらえるようお願いしています。また代表者と管理者が同時に遠出しないうようにも配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの勉強会の開催、コミュニケーション技術の向上に努めている。	本人は「～ちゃん」と呼んでほしいかも知れない場合でも基本的には「～さん」と呼びかけるようにと定めていて、排泄用品などは「新品でも人目に触れることがないように」といった細かな部分まで指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞き取り等をもとに、出来る限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者主体でのサービス提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく利用者に選択をしてもらっている。きれいな身だしなみを心がけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを事前に把握し、食が楽しめるよう見た目、食器、配膳方法に気を配っている。	昼食と夕食は業者納入による湯煎を使っていますが、彩りを考えてプチトマトや緑を添えています。クリスマスにはチキンやケーキを提供したり、春にはイチゴ狩りにでかけ、季節の節目のイベント食も楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量を把握・記録し栄養状態の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と連携し口腔内の清潔維持に努めている。定期的に歯の状態を含めた口腔内の状態を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄が継続できるよう支援している。おむつの使用枚数の削減にも努め、商品の見直しも行っている。	排泄チェック表をつけてリズムを掴むとともに、尿路感染予防に活かしています。夜間は安眠優先で吸水量に余裕がある大きなものを導入しています。またヨーグルト&運動による便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、足こぎ器を使って運動不足を解消している。乳製品を食事の際に提供し便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、温度などなるべく個別に対応している。入浴剤を使い分け、気持ち良い時間が過ごせるよう工夫をしている。	週2日を目安に清潔を保ち、「入りたい」希望があれば応えられる態勢にあります。吊るタイプのリフト浴を使用する人が5名いるため、職員は2名体制でより慎重に取り組んでいます。浴剤は2種類から選んでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備・維持に努め、快適にゆったりと過ごせる時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服用情報を確認できるよう薬情をいつでも見れる場所にファイリングしてある。新たな薬が処方された際には副作用等の情報も提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルにあった役割を利用者にもお願いしている。定期的にボランティアの方にもお願いをしお菓子作り、歌会などを開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲の中で、一時帰宅・墓参り・祭り参加など対応している。	庭先にはテーブルセットやベンチが置かれ、外気浴利用を日課としている人もいて、お風呂のない午後は散歩の時間としています(週1、2回程度)。デイサービスの車輛を借りることができるため、イチゴ狩、花見、だるま市とフットワークのよい活動が叶っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設側にて行っている。ただし家族に了解のもと買い物等の支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応している。写真を送ったり等の支援は施設側にて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間を提供するため常に環境整備に努めている。なるべく自宅に近い環境提供を心がけているため壁に大きな張り紙、飾り物等はしないようにしている。	玄関の上がり口からそのまま食卓&リビングとなり、ごく普通の家宅の様そのもので、皆居室にはおらず集まって一緒に過ごしています。濃さや噴霧の間隔を変えることができる加湿器や温度計が壁に設置され、食後寛ぐソファも配されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子等の配置を工夫し、ゆったり過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器等危険物の持ち込みはお断りしているが出来る限り自宅に近い環境になるようにしている。 尚、収納スペースが別に一畳分設けてある。	88歳の誕生日目前の肌艶のよい利用者の居室にはメイクケアセットが並んでいて、メイク上手な様子から「お化粧品は毎朝ご自分で？」と質問したところ、はにかみながら「まあね」と答えてくださいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動経路には物を置かず、トイレ・洗面・ホール等が分かりやすい空間造りに努めている。		